令和7年度

総務企画部の方針書

部　名	総務企画部
部長名	小玉　幸平

1. 部の使命（ありたい姿）

政策実現のエンジンとなり、市民起点の幸せな地域社会の実現を目指す。

担当政策	政策7：横手を思い、市民の想いを実現させる創造的な行政経営を進めます
担当施策	3-3：災害に強いまちづくりの推進　5-3：市民が利用しやすい公共交通の充実 6-3：情報を共有する環境の整備　7-1：住民ニーズに対応した成果重視の行政運営の確立 7-3：戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実

2. 部の抱える課題（現状）

- 第3次横手市総合計画及び関連計画の策定を完了させる
- 新しい体育館（横手市立体育館）を完成させる
- 横手市地域公共交通計画の着実な推進が求められる
- 持続可能な行政組織づくり（行政DXの推進と組織機構の見直し）
- 災害への対応と地域防災への取り組み
- 多様な情報発信手段を効果的に活用する

3. 今年度の『スローガン』

業務遂行に横串を通そう ⇒ 人口減少・行政DX・情報発信・行政改革

4. 今年度の方針

- 次世代へつなぐ事業を着実に進める。
- 人口減少に負けないためのまちづくりに寄与する。
- 持続可能な行政組織づくりを進める。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	次世代へつなぐ事業を着実に進める。
	取組内容	・第3次横手市総合計画及び関連計画（総合戦略・過疎計画等）の策定を完了させる。 ・横手市立体育館を完工する。 ・十文字副拠点エリアの利活用を具体化させる。 ・横手駅東西の市街地活性化の方向性を定める。（中心市街地活性化基本計画の策定） ・市制施行20周年にあたり市民の皆様が20周年を祝い、より横手愛を高められる機運を作る。
(2)	実現したい成果	人口減少に負けないためのまちづくりに寄与する。
	取組内容	・横手市地域公共交通計画を推進する。（循環バスのルート見直し・JR北上線の利活用推進など） ・人口減少対策事業を実施する。（よこての未来創生プロジェクト事業の継続実施） ・物価高騰等への対応を行う。（市民応援商品券事業や定額調整給付金（不足額給付）事業の実施） ・市の魅力や情報を発信する。 （SNS等による多様な情報発信ツールや地域おこし協力隊の活用・友好都市交流） ・地域防災へ取り組む。 （初動対応の徹底・防災情報の周知と登録拡大・避難所の生活環境改善・地域防災リーダーの育成）
(3)	実現したい成果	持続可能な行政組織づくりを進める。
	取組内容	・第4次職員適正化計画の策定や人材育成基本方針の見直しを行う。 ・行政DXを推進する。（ガバメントクラウド構築や書かない窓口実現に向けた対応・行政手続きのオンライン化・生成AIの活用・アナログ規制の見直し） ・持続可能な行政組織のあり方を検討する。

6．方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

➢ 次世代へつなぐ事業を着実に進める。
・本年度策定すべき各種計画等については、それぞれの策定に関する会議により議論いただいている。
・横手市立体育館の建設については、概ね順調に進捗している。
・横手市制施行20周年関連については、ロゴマークの作成を実施したほか、各種関連事業の実施（全力！よこて祭り）などを実施中。
➢ 人口減少に負けないためのまちづくりに寄与する。
・地域公共交通活性化協議会を開催し、循環バスのルートの見直し作業に着手している。
・市民応援商品券事業や定額調整給付金（不足額給付）事業など各種の物価高騰対応事業については大きな混乱もなく実施中である。
・今年度は市街地へクマの出没が相次いでおり、市民への注意喚起や出没情報の発信等に注力している状況である。
➢ 持続可能な行政組織づくりを進める。
・市民参画により、横手市行財政改革推進委員会を開催し、現状の取り組みを共有するとともに第3次行財政改革アクションプランの策定に着手した。

7．年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

➢ 次世代へつなぐ事業を着実に進める。
➢ 人口減少に負けないためのまちづくりに寄与する。
➢ 持続可能な行政組織づくりを進める。

【方向性/課題等】
今年度の方針に基づく重点取組については概ね順調な進捗となっているが、以下のような課題等を踏まえつつ各取組項目に取り組む。

・本年度策定すべき各種計画のうち国の方向性等が示されていない計画があり、当面現行計画を1年延長する想定も視野に入れる。情報収集に努め策定スケジュールの精度を上げていく。
・横手市立体育館建設事業について、設計や工事監理を的確に実施し工事品質の確保や計画的な工事進捗に取り組む。
・持続可能な行政組織のあり方を具体化する。
・来年度に向けた政策立案や調整（総合計画基本計画策定や予算編成作業）

8．総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）